

<第22回調査>

2011年3月24日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年3月15日(火) 13:00～2011年3月22日(火) 13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、604件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

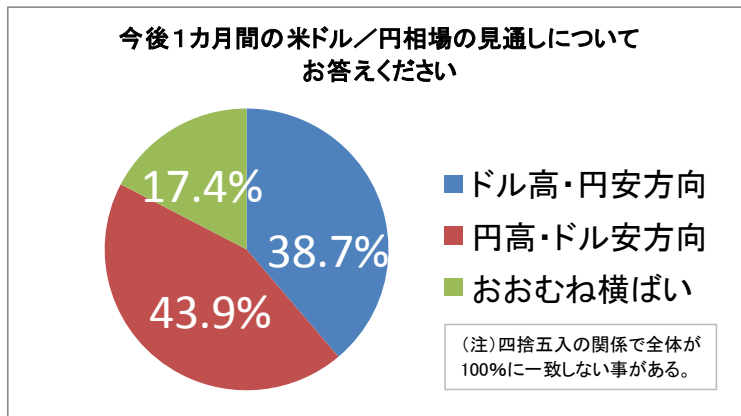
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第22回調査結果略報：ドル円DI、戦後最安値更新でマイナスに転換】

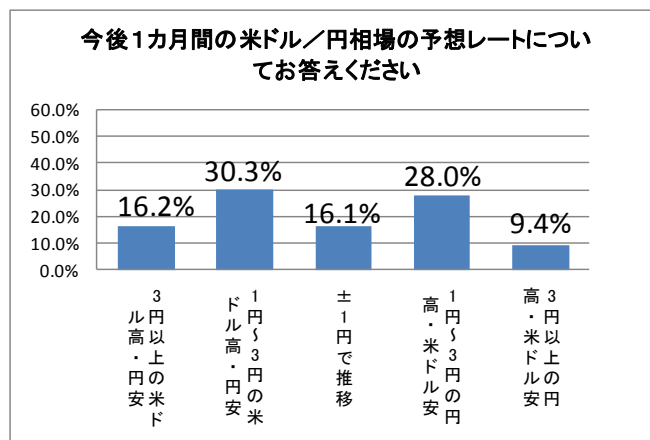
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が38.7%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が43.9%となった。この結果、「ドル円予想DI」は-5.2%ポイントとなり、前回調査の+40.2%ポイントから一気に円高・ドル安方向に転換した。調査期間中にドル円が戦後最安値となる76.25円を記録するなど、東日本大震災を契機に円全面高となった事がFX投資家の見通しを急速に円高・ドル安方向へと転換させたようだ。同じく調査期間内にはG7(先進7カ国・地域)による10年ぶりの協調介入を受けて81.98円まで値を戻す場面もあったが、昨年9月の本邦当局による円売り介入の効果が薄かった事は記憶に新しく、FX投資家の見通しをドル高・円安方向へ押し戻す事はできなかったようだ。※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が30.3%と最も多く、次いで「1円～3円の円高・米ドル安」が28.0%、「±1円で推移」が16.1%、「3円以上の米ドル高・円安」が16.2%、「3円以上の円高・米ドル安」が9.4%の順になった。ヒストグラムの形状は左右対称のM字型に近く、FX投資家の相場見通しに強弱感が対立している様子が見て取れる。また、上下3円以上の値動きを予想した向きの合算割合が25.6%と、前回調査の6.8%から4倍近く増加している点にも注目される。調査期間中にドル円相場が上下に6円近く動いた事もあって、今後1カ月についても比較的大きな値動きを予想する向きが多かったようだ。

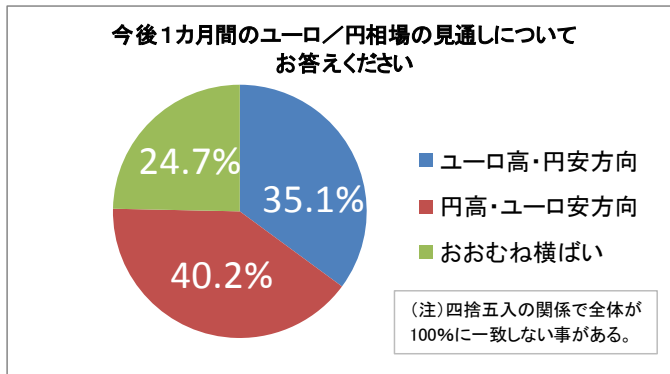


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

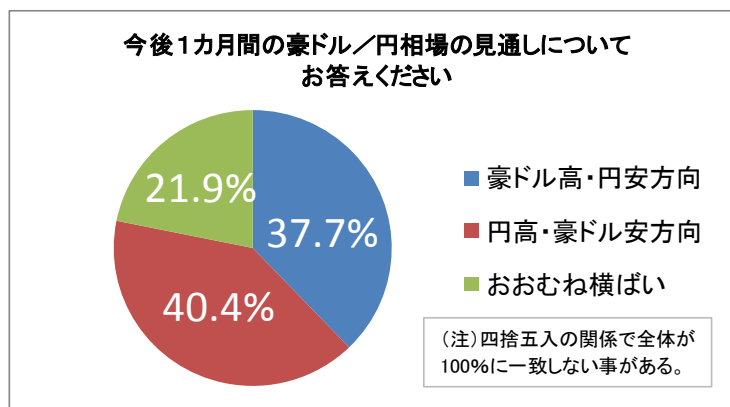
問3: 今後1カ月間のユーロ／円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が35.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が40.2%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は-5.1%ポイントとなり、前回調査の+7.0%ポイントから再び円高・ユーロ安予想に転換した。調査期間中のユーロ円相場は、114円台から106円台に急落後、G7協調円売り介入や欧州中銀(ECB)による4月の利上げ観測を背景に115円台に急反発するという値動きとなったが、東日本大震災による福島第1原発事故への懸念やリビア情勢の深刻化といったリスク要因がくすぶる中、ユーロ強気派はやや勢いを失った格好だ。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が37.7%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が40.4%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は-2.7%ポイントとなり、昨年8月の第15回調査以来7カ月ぶりの円高・豪ドル安予想となった。豪ドル円相場でも調査期間の序盤には、82円台から74円台まで下落するなど急激に円高が進んでおり、FX投資家心理も急速に円高・豪ドル安方向に傾いたと見られる。本邦を襲った東日本大震災はFX投資家の豪ドル選好に水を差すほどの大きな影響を与えたとも言える。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

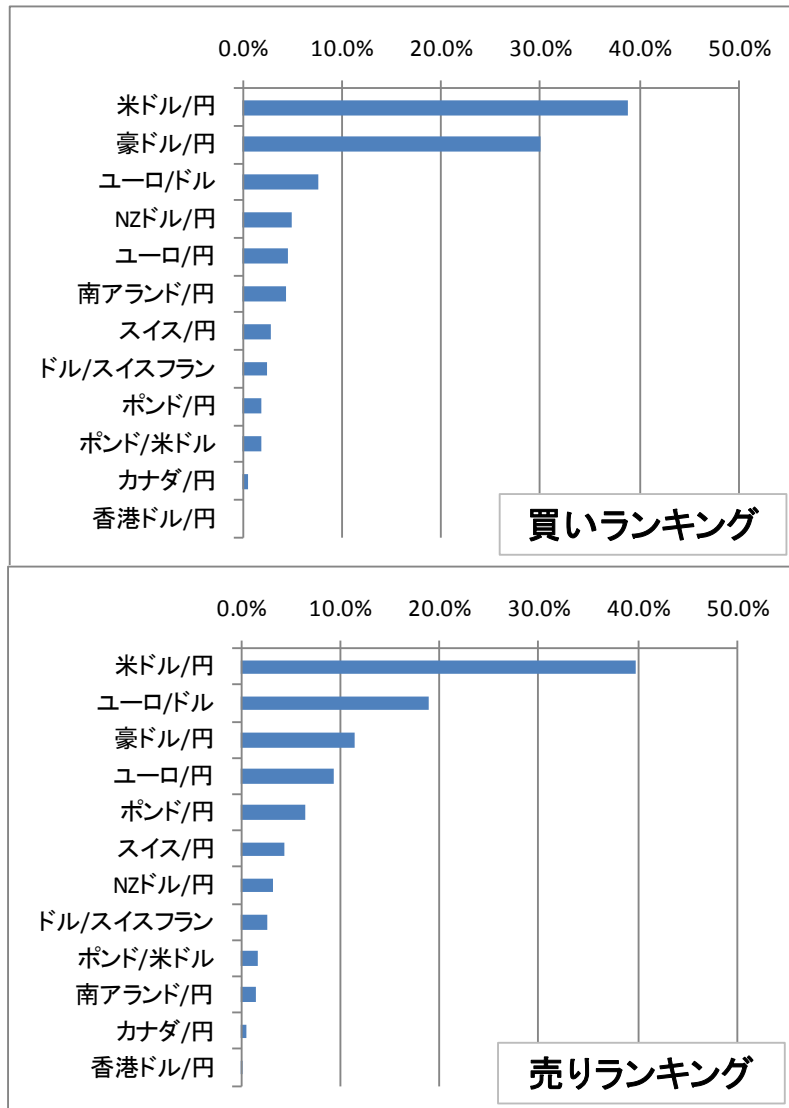


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(38.9%)、2位豪ドル円(30.0%)、3位ユーロドル(7.6%)、4位NZドル円(5.0%)、5位はユーロ円(4.6%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(39.7%)、2位ユーロドル(18.9%)、3位豪ドル円(11.4%)、4位ユーロ円(9.4%)、5位ポンド円(6.5%)となった。「買い」で注目の通貨ペア、「売り」で注目の通貨ペア共にドル円が1位となっており、FX投資家のドル円に対する関心の高さを改めて裏付ける結果となった。調査期間中に、76.25円という戦後最安値を記録した事で、より注目度が高まったものと思われる。一方、豪ドル円は、「買い」で注目が2位となっており、問4の結果で7カ月ぶりのマイナスDIを記録したものの、下値では引き続き買い意欲が強い事を改めて感じさせる結果となった。

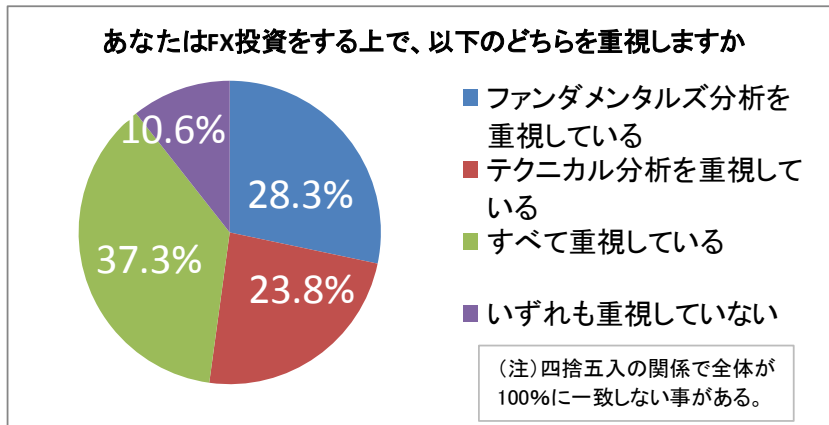


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

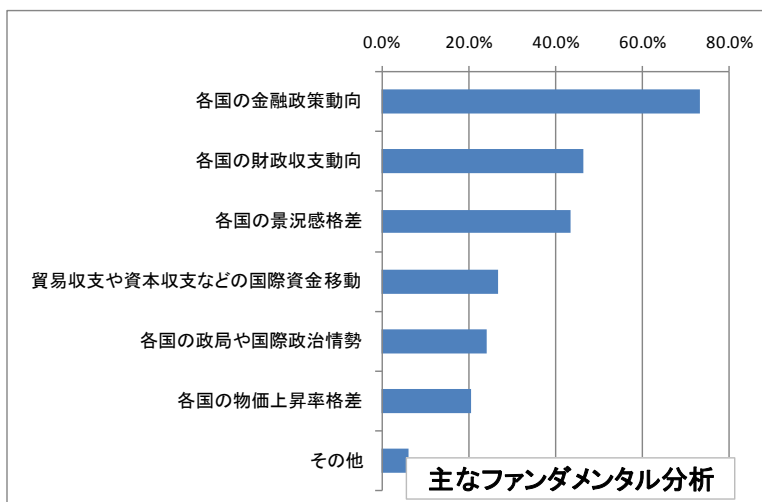
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が28.3%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が23.8%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が37.3%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.6%となった。2009年6月の調査開始以来、回答割合に顕著な変化は見られず、FX投資家の分析手法に対するスタンスはほぼ確立されていると言って良さそうだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(73.3%)」と答えた割合が最も多く、「各国の財政収支動向(46.5%)」「各国の景況感格差(43.7%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(26.7%)」、「各国の政局や国際政治情勢(24.3%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めており、FX投資家はファンダメンタルズ分析の中でも「金利差」に直結する各国の金融政策動向に特に注目しているようだ。

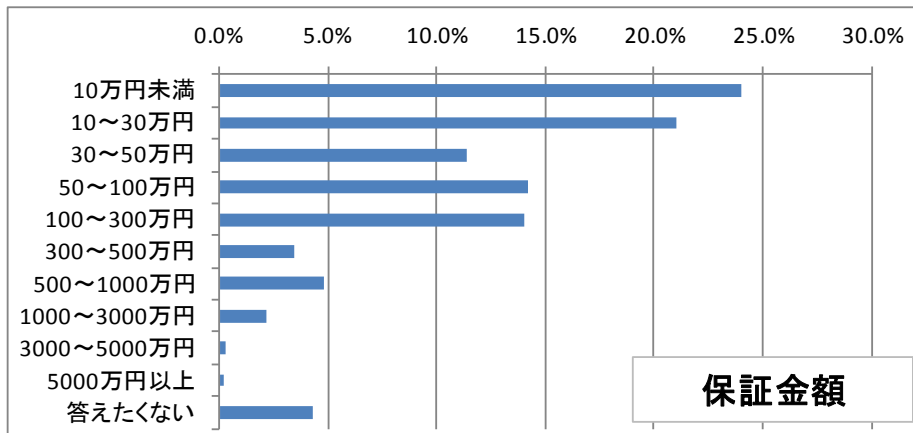


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

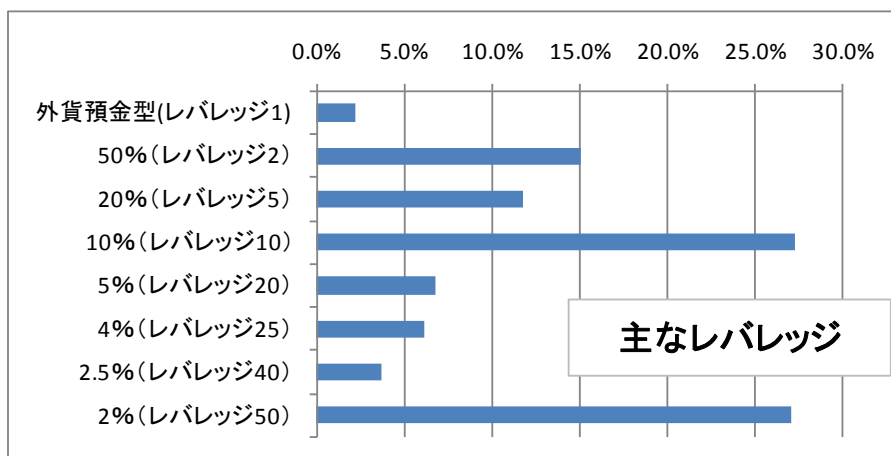
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.0%と最も多かった。以下、「10～30万円(21.0%)」、「50～100万円(14.2%)」、「100～300万円(14.1%)」、「30～50万円(11.4%)」、となった。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家が7割を占める(合算割合)一方で、1000万円以上と答えた合算割合は2.7%にとどまるなど、比較的小口の投資家が多数を占める傾向に調査開始以来大きな変化は見られない。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「10%(レバレッジ10)」がと答えた割合が27.3%と最も多く、以下、「2%(レバレッジ50)」が27.2%、「50%(レバレッジ2)」が15.1%、「20%(レバレッジ5)」が11.8%と続き、前回調査同様「10%(レバレッジ10)」と「2%(レバレッジ50)」で過半数を占める結果となった。FX投資家の取引保証金率を選択する姿勢はほぼ確立されたと言って良いだろう。ただ、今年8月には4%(レバレッジ25)が上限となる事が決まっており、その後の推移が注目される。

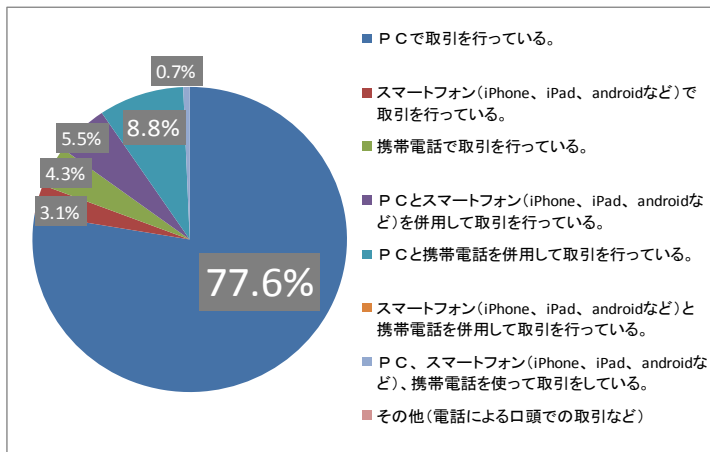


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

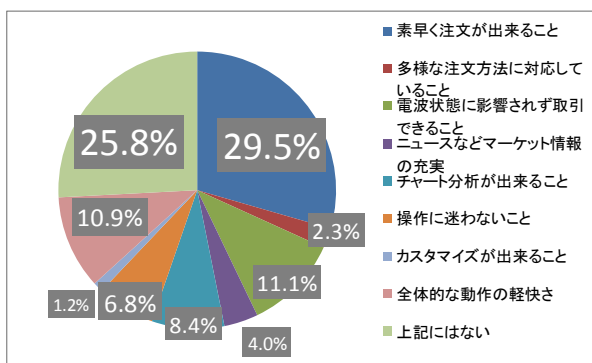
問10: FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目としてFX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)と尋ねたところ、「PCで取引を行っている」と答えた割合が77.6%、「PCと携帯電話を併用」が8.8%、「PCとスマートフォンを併用」が5.5%、「携帯電話で取引」が4.3%となり、「スマートフォンで取引」は3.1%にとどまった。FX投資の取引ツールとしてはPCが圧倒的に多用されており、近年、普及が進んでいるスマートフォンはやや苦戦しているようだ。PCに比べると画面が小さく、チャートが見づらい点などがネックとなっている可能性がある。ただ、現在、約10%とされている日本のスマートフォン普及率は、2015年には約40%になるとの予測もある。今後はFX取引においてもスマートフォンの普及が徐々に広がっていくものと思われる。



問11: いわゆる「スマートフォン」でのFX取引で、もっとも重視することは何ですか。(ひとつだけ)

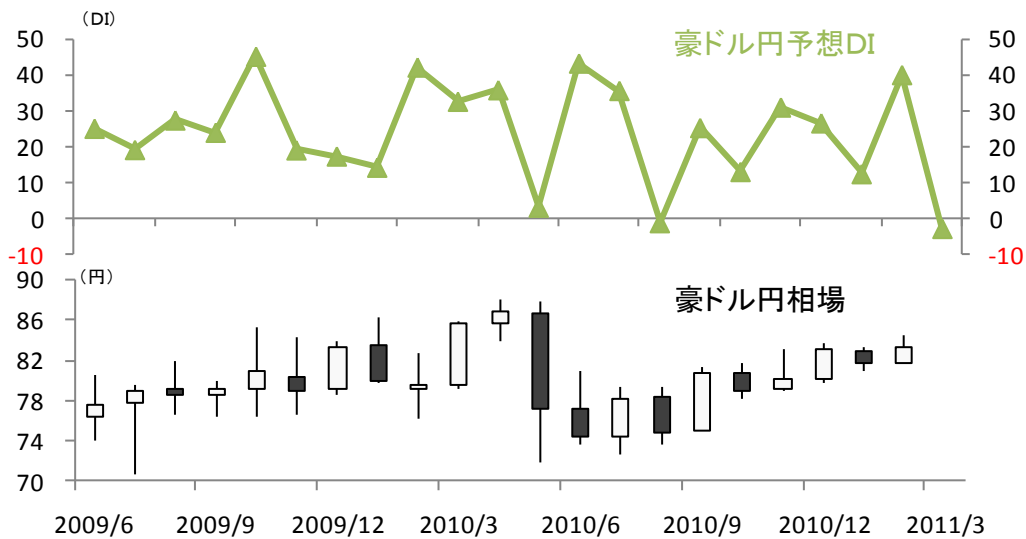
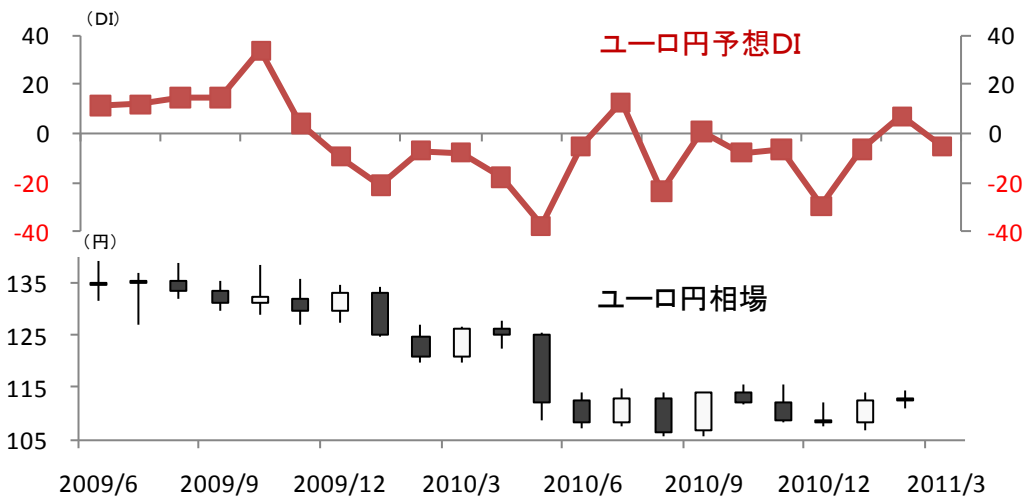
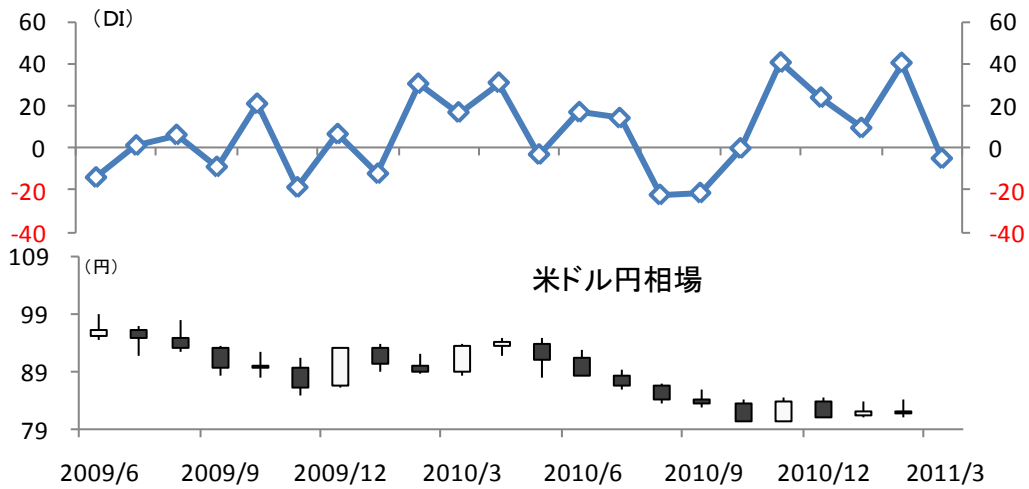
今月のもう一つの特別質問項目として「いわゆる『スマートフォン』でのFX取引で、もっとも重視することは何ですか。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「素早く注文が出来ること」が29.5%と最も多く、以下「電波状態に影響されず取引できること(11.1%)」、「全体的な操作の軽快さ(10.9%)」、「チャート分析が出来ること(8.4%)」、「操作に迷わないこと(6.8%)」と続いた。出先でのFX取引に使われる事が多いであろうスマートフォンには、操作性の良さはもちろん、電波状態の安定といった基礎的な条件の確保が必須となる。これらがFX取引におけるスマートフォン普及のカギを握る事になるであろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第22回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、開始後1年半以上が経過し、前年同期との比較も徐々に可能になってきましたが、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com